

児童書

ぼくらは読んだ、空、海、生活、偉人伝



19 戦争とからだ

石津誠 / 東亜堂

装幀・挿画 内田武夫

永い間戦地にあつて貴重な体験を持つた著者が、ぜひ鍛錬しておかなければならないことを戦場の実際に例をとつて、実行し易く解り易く述べた青少年向けの書。（「国史をつらぬく力」巻末広告より）



22 燕たち

石森延男 / 三省堂

表紙 高橋庸男

燕たち、ヒヤシンス、明笛を吹く少年等二十五篇の秀れた読物をおさめてみます。これこそ課外読物として、美しく面白くて為になる唯一無上のものです。切に御愛読を望みます。（「ひろがる雲」巻末広告より）



23 ひろがる雲

石森延男 / 三省堂

表紙 高橋庸男

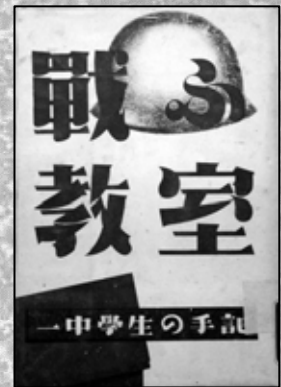
息子と柿、静かな古戦場、報国丸の罐たき等三十四篇。満州国を主題としてその名所旧跡・風物等を挿入した童話がおさめてあります。少年少女の読物として。最も興味がある有益な読物。（「燕たち」巻末広告より）

26 戦ふ教室

岩城謙二 / 時代社

装幀 浜野全平

即ち岩城君はあの大詔が渙発せられて以来日々に昂る感激のヒシヒシと迫り来る圧力をどうすることも出来ず、これを欺かす、瞞らす、率直に記録し、受持ちの橋本勇先生の所に持ち込んで読んで貰っては、せめてもの衝動の吐け口とし、切情の遣り場ともしてゐたのである。(堤秀夫氏序文より)



27 戦ふ青少年

岩瀬正雄 / 希望の窓社

これは五百の団員から集まつた青年の生活記録を選輯したものであるが、大東亜戦争遂行のさ中であつて、青年団員諸君がどんな心構へで、どんな生活をしてゐるかの忠実な報告であつて、その中には食糧増産に努力した記録もあれば、自己の錬成生活を素直に記述したものもあり、教養の問題を採りあげてゐるものも少くない。(熊谷辰治郎氏序より)



29 空ゆく少年

岩本喜一 / 帝国図書

装幀 林唯一

一篇の物語体にはあるが、それは何んとかして、みなさんに飛行機のことや海軍航空のことを、少しでもわかり易く、少しでも面白く、よんでいただきたいためである。前にも土浦航空隊司令がおつしやつてゐられるやうに、今第一線においては、非常にはげしい航空決戦が行はれてゐる。そしてわが勇敢なる海鷲達は、それこそ夜も日もなく活躍してをられるのである。(自分のことばより)



35 鉄道部隊

上田広 / 教養社

挿画 内山英一

この本にをさめた話はすべて、北支の鉄道沿線を転戦した私の体験からうまれたといつてよい。やがては大東亜建設の兄弟となるべき支那の少年少女の幸福をねがはずにはゐられぬ私は、この本を読まれる我が日本の少年少女諸君の眼と心が、支那の子供たちへのゆたかな理解となつてひらかれることを、心からいのつてやまない。(まへがきより)





41 軍艦旗の下に

海野十三 / 偕成社
装幀・挿絵 飯塚鈴兒

私にとっては、はじめての出陣でありました。戦争といふものはどんなものか、わが海軍はどんなふうなたたかふのか、南太平洋の戦地はどんなところか、それから、私みたいな小説を書いてゐる人間が、敵弾の下へいつて、果して勇ましくはたけらげらるだらうかなどと、心配のたねがたくさんありました。(この本を読んでくださる皆さんへより)



45 国史をつらぬく力

遠藤元男 / 東亜堂
装幀 渡辺伸一

私が、こゝで書いたことは、みなさんに、国史について何か話をするといふものよりも、私自身が、今ひしひしと感じてゐる国史の現実を、そのまゝ伝へようとしたものである。(はしがきより)



52 少年武士道

大坪草二郎 / 柁谷書院
装幀 江崎孝坪

真の武士道は真の皇国精神であらねばならぬ。この見地より忠節、武勇、礼節、信義、質素、誠心の項目をあげ、古今の例話を豊富に引用して青少年の脳裏に真の皇国精神を沁み込ませようとするのが本書(本書巻末広告より)



53 中国文明史物語

大林重信 / 富山房
装幀・挿絵 山本一郎

この文明史物語では支那といふことばは支那事変といふやうに特別きまつたもののほか用ひないでおきました。中国人は支那といふことばを大へんきらひます。ちやうどわたくしたちが外国人からニッポンと呼ばれないで、ジャパンと呼ばれるのが不愉快なのとおなじことなのでせう。(本文「支那といふことば」より)

64 支那の子供

尾関岩二 / 興亜書局

装幀 小川真吉

昔は支那から、学問や風俗が入つて来た。ですから、支那の方が日本の兄の国であつたといへませう。そしてさういふ昔の支那のことは、日本人も割合よく知つてゐるのですが今の日本人は今の支那を余り知らない。仲よくなつてこれから一緒に成長して行かうといふのに、それではなりません。それで日本の少年少女諸君に、支那の子供たちのことを知らせる本を発行したいと思ひ、そのことを童話作家の尾関岩二先生に相談しました。(畑米吉氏本書発行の趣旨より)



65 僕らの翼

小野春雄 / 大京堂書店

少年時代から正確な航空知識を把握しておかねばならない。興亜の黎明者を以つて任ずる日本国民として、なほ然り。天翔ける航空機に、今こそ、少国民は絶大な興味を持つべきである。(東栄治氏序文より)



71 日米短艇競漕

梶野正義 / 童話春秋社

装幀・挿絵 鈴木御水

この書物に収めた十篇の物語のうち、七篇は、帝国海軍の兵隊さんのことを書いたものです。(中略)

あとの三篇は、水兵のお父さんが出征したあと、しつかりと家を守つた少年のこと、世界の捕鯨船の集る南氷洋で、日本の捕鯨船がどんな活躍をしたか、それに乗組んだ少年がどういふふうに通じたか、また軍港に生れた少女が、水兵さんをどんなに力づけたか、さういふことについて書きました。(まへがきより)



77 太陽をかこむ子供たち

川崎大治 / 文昭社

装幀・口絵・挿絵 松山文雄 挿絵 前島とも

新らたなる歴史を拓くべき

子供たちにさゝぐ

(巻頭より)





78 国旗と万歳

河原万吉 / 清水書房
装幀・挿絵 渡部菊二

君たちは、これから先の日本を、その小さな、しかしがっちりした肩に、になつて起つ人たちです。どうかこの本をよんで、日本の国と国民の心をもつともつとよく知つて、自分の心をしつかりと固めて下さい。そして日本の心を、もつとよく世界に知らせて下さい。
(序より)



81 海南島の開発者勝間田善作

長沼依山 / 三省堂
装幀 木原芳樹 口絵 森口静枝

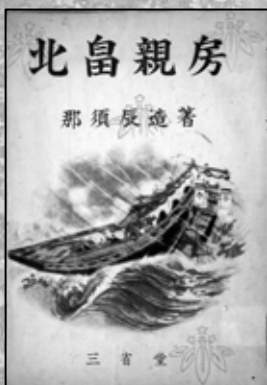
本書は海南島の開発者勝間田善作翁の波乱重畳の生涯を描きつゝ、海南島の歴史、地理、風俗、習慣等を詳細に、物語風に述べたものである。海南島在住四十五年に及ぶ勝間田翁の生涯こそ、まさに海南島の発展史とも云ふ可きである。興味深々として尽きざる好読物。(「北島親房」巻末広告より)



88 日本科学英雄伝海国兵談

貴司山治 / 春陽堂書店
包紙 伊藤薫朔 表紙 真垣武勝

戦争に強いばかりでなく、日本人は昔から科学の仕事にもすぐれていたのである。
僕たちの祖先は、国をよくしようとして、科学の仕事においても、命をなげだしてはたらいだ。わが国には、戦争の英雄だけでなく、科学の英雄も昔からたくさん出てあるのだ。その英雄たちのはたらきを、諸君に知ってもらひたい。(少国民諸君へより)



90 北島親房

那須辰造 / 三省堂
装幀・挿画 矢島健三

どういふ人を英雄といふか。日本の英雄とはどんなものか。一点の私心もない真心と不撓不屈の信念とをささげつくして、御奉公をした親房卿の生涯が、それをあきらかにしてくれます。(はしがきより)

95 僕の木船見学

小泉紫郎 / 東雲堂

小泉画伯は、わざわざ木造船所を見学して、この本を皆様のためにつくられました。読んで面白く、一度で木船のことがすつかり分る本です。(猪口猛夫氏序より)



97 船と航海老船長の話

小門和之助 / 偕成社

装幀 樺島勝一 挿絵 北宏二

『少国民にたいし、適切な船と航海の知識をあたへることに余生をささげたい。これらの子供さんたちは、やがてわが国を背負つて立つ大事な人々だから』といふわけで、さつそく、国民学校や中等学校の少年少女たちを、大阪湾に面した岸和田城址の畔にある自分の家に呼んで、三晩にわたつて、はなした物語が、これなのです。いづれも船や海の物語ですが、老船長としては、これらの物語を通じて、少国民たちに必要な商船の知識を身につけてもらひたいと、念願してをります。(まへがきより)



111 国防の先覚阪本天山

中貞夫 / 東亜書院

装幀 大石哲路

私たちは、国防といふ考へがまつたくなかつた時代に、五十年さき百年さきの日本の運命を見ぬいて、国防のために生涯をたたかひつづけた一人の日本人を見たいのである。(はしがきより)



112 黒船時代

塚原健二郎 / 学習社

装幀 岡村夫二男 口絵・挿絵 吉田貫三郎

この本が、一人でも多くの人に読まれ、その人々の胸に、象山の立派な、そして美しい詩のやうな生涯が、永く生きつづけてほしいと、私は心から希ふものである。(はしがきより)





114 航空部隊二十年

柴田真三郎 / 三光社

装幀・口絵 松添健 漫画 小川哲男

この本は、大東亜戦争において、世界にたくひない大戦果ををさめてゐる、帝国陸海軍航空部隊の航空精神と、この航空部隊の建設充実のためになされた、過去二十年にわたる苦心と努力とについて、のべたものである。(はしがきより)



115 模型航空機の理論と設計

柴田真三郎 / 受験研究社増進堂

諸君が本書によつて『理論と設計』の正確な知識を養成されて、これに基づいて独創的な模型航空機を製作される様に希望する次第であります。(はしがきより)



116 コドモキンラウブタイ

柴野民三 / 網島書店

画 中野廣

ボクたちハ コドモキンラウブタイ。
ツヨク タダシク、アカルイ ココロデ、
ボクたちデ デキル コトナラ
チカラ イッパイ ナンデモ シマス。
(本文より)



129 少年戦車兵

清閑寺健 / 小学館

画 加藤たかし

少年戦車兵とは、どんなものであろうか。

私は、ここで、一つの物語をとほして、少年戦車兵になるには、どうしたらいいか、少年戦車兵は、どんな生活をしてゐるか、といふことなど書いてみました。(はじめのことばより)

139 比島絵だより

滝田要吉 / 国民図書刊行会

このスケッチは、戦闘の暇を見て描きためたものや、方々の警備地で見聞したことを順序なく書きとめておいたものを、勤務の暇をみてまとめたものです。

少々苦心談を書けば、小休止や大休止で皆が煙草を吸つてゐる暇に描いたり、戦友のいびきを聞きながら、ローソクの灯で幾度か眉毛を焦がしながら書いたことです。(まへがきより)



141 少年地理支那だより

武田雪夫 / 朝日新聞社

画 高井貞二

君たちも、大きくなつたら、大陸へ出かけて、新しい、正しい支那の国の人たちと力をあはせて、ますますこのアジアをさかんにし、世界のためにも、つくさなくてはなりません。(本文「一ばん終のたより」より)



146 マンシウノコドモ

巽聖歌 / 白鳩社

画 富樫寅平

みなさまがたのお子さんに、満洲国をどんなふう理解していたくかといふ点になり、わたくしはまづ手始めに「満洲のこども」の生活をかきました。両国親善の基礎になり、満洲国を理解する手引きになれば仕合せです。(お母さまがたへより)



148 青少年南洋物語

田中青士 / 田中宋栄堂

装幀・画 田中青士

日本といふ国は気候にも恵まれて居り、五穀もすこぶる豊かな国で、国民も勝れた働き手であります。その上世界に類のない尊い国柄でありますから、まことに申分のない国であります。(はしがきより)





150 高山彦九郎

前田晃 / 正芽社

装幀 中尾彰 挿絵 伊勢良夫

今、群馬県新田郡太田町に在る県社高山神社は、即ち彦九郎を祀つた社であります。その在る所は彦九郎の郷里の細谷に近く、又、うしろに聳えた金山の頂上には、彦九郎と縁故の深い新田義貞を祀つた県社新田神社があります。建武中興時代の忠臣と江戸時代の忠臣とは、いはば相並んで、はるかに関東平野のむかふに、盛りあがる隆昌の気の充ち満ちた大東京の方を、じつと見守つてゐるのであります。(結語より)



154 蟻地獄

土家由岐雄 / 金の星社

装幀・挿画 三芳悌吉

この童話集は、そのマライ地方を題材として書いたものばかりを選んで、一冊といたしました。そして全部の作品が日記風な長編童話とも看做せるやうに、編んでみました。(中略)この大東亜戦争に勝抜くための補給宝庫であるマライ地方の人情、風光、動植物、或ひはそこに戦ふ祖国の人人の決意や、我が国に絶対の信頼を寄せて協力する現住民の姿などの一端を示して、南方事情を紹介することを、この童話集の目的といたしました。(あとがきより)



155 童話ドイツ人形

土家由岐雄 / 鶴書房

装幀・挿画 内田巖

私は、世界にかゞやく日本の、皇紀二千六百年祝典を眼のあたりに拝して、この聖代に生をうけた日本の童話作家の一人として、これを祝ひ奉る童話を書きたいと願つてをりました。(あとがきより)



158 海は招く

津村敏行 / 農山漁村出版所

装幀・挿絵 津村敏行

本書は目下海兵団にある著者が、海軍志願兵参考のため、且はその映画化を目的として書き卸したものであつて、肩のこらない絶好の参考書であると思ひ、こゝに広く少年達に推薦する次第である。(竹下勇氏「行け、海の第一線へ!」より)

160 ガダルカナル決死の伝令

富田邦彦 / 大同印書館

画 成瀬一富

この絵本の話は、南太平洋でも、一番戦ひのはげしかつたガダルカナル島にあつた壮烈な実話であります。私はこの話を書きつゞりながら、ちやうど自分も伝令の一人で、ジャングルの中を突き進んで、敵陣に向ふやうな何とも言へない気持になりました。(作家の言葉より)



163 満洲開拓の父東宮大佐伝

長沼依山 / 至玄社

装幀 松森太満男 口絵・挿絵 加藤たかし

満洲移民の父と尊ばれる東宮大佐の生地、群馬県勢多郡宮城村は赤城山麓に在り、関東平野を一望におさめることの出来る眺めの広い処で、いかにも大佐のやうな偉人の出生地にふさはしい。

しかし、偉人の生れ出るのは場所や職業に関係はない。つまりどこからでも出る。更に言へば「神の御心」であると私は思ふ。(渡辺金造氏読者諸君へより)



168 僕等の開墾地

中田秀夫 / 国民社

画 原一司

内容 伝書鳩少年団 僕等ノ開墾地 美シキ友情



169 南支仏印風土記

長沼依山 / 至玄社

装幀・口絵 松森太満男

我が同胞が、新しい関心をもつて、南方に心を向けてゐる時、私は僅か三ヶ月間の従軍であります。研究や調査の機会を与へられ、六回目の中国視察を遂げ、大きな感銘と興味をもつて、一万軒の旅を終へたのでした。(前がきより)





170 日本の翼

中村新太郎 / 紀元社
装幀・挿絵 飯塚玲児

この本は、わが陸鷲の奮戦のやうす、地上整備員の苦心、親鷲と子鷲間の愛情、戦友愛などをかいたもので、わが陸軍航空隊の活躍が、いろいろの角度から描かれてあります。(西原勝氏推薦のことばより)



172 日本の偉人 第2輯

奈良島知堂 / 文昭社

この本にあつめた西郷隆盛、乃木希典、東郷平八郎、広瀬武夫の四人の偉人は、それぞれに立派な軍人でありました。御国のために生命を捨て、惜まなかつた、その尽忠報告の精神は、世界の人の手本になります。(中略)
今や、亜細亜には日本の力で、新しい秩序が生まれやうとしてあります。日本の少年少女諸君は、これらの偉人を御手本にして、立派な人となつて大いに活躍していただかなければなりません。(小学課外読物研究会序より)



173 兵隊と豹

成岡正久 / 大東亜社
装幀・挿絵 廣本喜與丸

この本の著者成岡正久氏は、軍人として中支那の第一線で、生後間もない野生の仔豹を生捕り、そして立派に育てあげられたのです。これはたゞ、動物が好きだ、動物が可愛いといふだけで出来るものではありません。動物を知り、動物の心をつかんである人でなければ出来ないことです。それだけに、著者の苦心の程がありありとうかゞはれ、心から敬服させられるものであります。(福田三郎氏序にかへてより)



178 飛行機

西原勝 / 小学館
装 小池巖 画 加藤たかし

日本も、国民全体が一致協力、世界で一番強い航空日本を作らねばなりません。

このためには、皆さんのやうな小国民の中から、飛行機にしたしみ、よく研究して、将来、一人のこらず航空の仕事にたづさはるやうになり日本航空のお役に立つ人とならねばなりません。

かうしたわけから、飛行機の話や、操縦士はどうして訓練されるものかなどを、書いてみました。(この本を読む皆さんへより)

180 旗艦先頭

西村皎三 / 中央公論社

装画 松添健

この詩集の詩は一篇として畳の上で書いたものはありません。みんな艦上で、仕事の暇々や、夜おそく書いたものばかりです。

昨年十一月、何年ぶりかで太平洋第一線の艦隊に乗組み、息のつまるやうな空気の中に毎日を送り、はじめ自分の子供等に海上生活を知らせるためと、艦内でガリ版で発行してる新聞の主任となり、その余白を埋めるため（水兵さんは童謡を非常に喜びます）書出したのが抑々の書始めでせうか。（後記より）



183 新田義貞

池田宣政 / 偕成社

装幀・挿絵 齋藤五百枝

高く勤皇の大旗を掲げて賊軍尊氏と対峙し、遂に一族と共に悉く金崎城に玉砕した義貞の悲壮なる尽忠の生涯を描く。（本書巻末広告より）



184 日出づる国

沼田利三郎 / 日本出版社

皇国の少国民諸君に我が国体の尊厳を明らかにし忠君愛国の精神を養ひ神代より現代に至るまでの国史の大意を興味ある物語風にして趣味的に会得出来る様に沼田利三郎先生の熱筆が本書の全頁の隅々までみちみちとして溢れてゐます。（本書巻末広告より）



187 純忠乃木將軍

渋沢青花 / 金の星社

装幀・挿画 佐倉愛土

要するに私がこの書で書かうとしたことは、一生を純忠で貫いた將軍、至誠に生きて功名を度外視した將軍の面目で、そしてこれこそ真に日本人の典型であり、今日非常時局にある私たちが、將軍を鑑として日本人たるの自覚をもたなければならないといふことを、おたがひに考へたかつたのです。（終りにより）





194 僕らは海の子

原種道 / 日の出書院

弘安四年（皇紀一九四一）総勢拾余万の元軍は海を覆うて来襲しました。このとき、筑前（今の福岡県）博多の付近に集合してゐたわが軍は、勇気凛々、死して護国の鬼たらんとの意気ものすごく、まづ博多湾に殺到した敵艦をむかへ撃つたのであります。

表紙の絵は、その博多湾の戦ひの模様を糸がいたもので、小舟にのつて巨大な敵艦を襲撃してゐるところであります。中央の勇士は竹崎季長と大矢野種保兄弟であります。敢然と敵艦に斬込んでゐるさまは、まことに壮絶であり、凄絶であります。この絵をみる日本国民は、一人残らず血湧き肉躍るであります。（表紙「蒙古襲来」の説明より）



198 戦ふ水雷戦隊

日暮豊年 / 大東亜社

装幀 梁川剛一 挿図 齋藤清 中島章作

大東亜戦下わが海軍の花形として、いはゆる神出鬼没、至るところにその神技を發揮し、赫々たる戦果を挙げてゐるのは、偶然ではないのであります。本書には、古今を通じて一貫したるわが民族の伝統と、わが優秀なる兵器、即ち精神力と科学術力が渾然一体となり、こゝに偉大なる戦果を挙げつゝある所以を述べたつもりであります。（序より）



199 麦と兵隊

火野葦平 / 日本文学社

『麦と兵隊』といふ名前は、もうみなさんも、大方聞いて知つてあるでせう。これは徐州の戦争に、実際に参加した、報道班の兵隊さんで小説家でもある、火野葦平といふ方の書いた本なのです。

みなさんのお父さんお母さんお兄さんお姉さん、日本中の幾百万人といふ人たちが、この本を読んで、感激のあまり泣いたのです。そして日本の歴史の上で、今までになかつた重大なこの戦争の姿を、しつかりと掴んでゐるひ立つたのです。今でも、まだこの本はみんなに抱きしめられ、この本の話はひつきりなしに話されてゐます。

こんなにまで、日本中の人たちの心を揺ぶつた『麦と兵隊』は、私たち日本人にとつて、永久に忘れることの出来ない、そして世界に向かつて誇つてもいい、立派な文学なのです。ところがまことに残念なことには、『麦と兵隊』はそのまゝでは、みなさんにはむづかしくてわかりません。日本中の大人は読んだが、みなさんのやうな小さい人たちは、たゞ名前を聞いて知つてゐるばかりといふのでは、こんな大切な大切な意味を持つてゐる本としては、どう考へてもおしくて仕方がありません。

そこで色々苦心に苦心したあげく、みなさんが読んでてもとても面白くわかるやうになつて生れたのが、この児童版の『麦と兵隊』なのです。みなさんは、お父さんお母さんお兄さんお姉さんたちが、この本から受けた尊い感激と涙を、こんどは児童版の『麦と兵隊』を読んで、自分たちの心の中にも、しつかりとたゞみこんで、次の日本を背負つて、東洋を又世界を今よりもつともつと立派にしてゆく、世界的日本人とならなければなりません。（永野滉氏まへがきより）

202 昭南島の日章旗

平栗竹男 / 教養社

装画 高井貞二

さて、私は従軍記者として、シンガポール攻略戦に参加することの出来た光栄と感激をもつて、この本を書きつづけました。が、その間にあつて、片時も忘れることの出来ないしかも、しばしば胸の中に思ひ浮かんだことがあります。それは、皇軍の無敵さです。

草に臥して突撃の折を待つ兵隊さんの姿、濠の水たまりに腰までつきりながら、食事もとらずに何時間も立つてゐた兵隊さんのこと、それは、さながら、敵をにらんで立つ神の姿とでもいへませう。人間業とは思へぬ力、人間の常識ではとうていばかり知れぬ力は、どこから湧いてくるのでせうか。(少国民に贈る言葉より)



205 世界潜水艦ものがたり

広瀬彦太 / 文昭社

装幀・挿画 飯塚玲児

私は、少国民諸君に、潜水艦に対する科学的認識を深め、正しい知識を得てもらひたいとの念頭から、本書の著述を思ひたつた次第です。

諸君が本書を読んで、潜水艦の科学的知識と、その独特の戦術を知つて下さるなら、私にとつてはこの上ない喜びです。(序文より)



207 国旗掲揚式

ファンチュッリ / 主婦之友社

装丁・挿絵 恩地孝四郎

丁度あの有名なデ・アミチスの『クオレ』を読むと一昔前のイタリアの子供らの姿がうかんでくるやうに、この本を開くと今日のムッソリーニのイタリアの子供らが歓声をあげて近よつてくる。

この子供らと一しよに、本の間からあらはれてくるものは、イタリアの自然である。イタリアの山と川と町と教会と飛行機と、大ローマの偉大とムッソリーニの事業とが、消えたり、あらはれたりして、糸がき出すファシストイタリアの潑刺たる姿である。

この本の作者はヂュゼッペ・ファンチュッリといひ、フロレンスのうまれで今年五十九歳。ミラノ大学で児童心理学を教へたほど子供の気持ちに通じた人である。その健全な芸術は人情の機微をきはめ、筆致は素直で美しい。他の作家に比し作品が非常に多く、しかもその大部分が児童物であることも珍しい。実に彼こそは、現代イタリアの児童文学の巨星中の巨星だ。(柏熊達生氏訳者の言葉より)





209 少年大空への道

落谷虹児 / 起山房

装幀・挿絵 落谷虹児

航空局では、この航空日本を築き上げるため「航空機乗員養成所」といふ学校を設け、陸海軍の荒鷲につゞく鳥人の養成を行つて居るのであります。

この「大空への道」の著者落谷さんはこの航空機乗員養成所の貴い使命と希望に燃えて学びつゝある生徒達の逞しさに接して感激の余り、広く世の青少年諸君へ「大空への道こゝにあり」と叫ばれたのがこの物語りであります。

(山田良秀氏序より)



212 僕の兵器学

福永恭助 / 三省堂

戦争に大切なものは兵器だといふことは、今度のヨーロッパ戦争で、ドイツが輝かしい勝利ををさめたことから願けるでせう。銃後の小国民として、兵器のことはよく心得てみて下さい。本書はあらゆる兵器について、誰にも分るやうに易しく、しかもくはしく説明した良書です。戦車や機関銃・潜水艦や航空母艦・爆撃機やロケット爆弾など、およそ兵器に関することは何でも出てみます。(「山田長政」巻末広告より)



213 ぼくらの大東亜戦争 その1

藤井隆章 / 協栄出版社

この「ぼくらの大東亜戦争」は、少国民諸君のために書かれた大東亜戦争の記録であるとともに、少国民諸君自身の戦ひの記録でもある。(下野信恭氏序より)



214 陸戦の華戦車

藤田実彦ほか / 小学館

装幀・口絵 飯塚玲児 挿図 桂井節郎

この本は、少国民および青少年諸君に、戦車とはどういふものであるか、どのやうに戦ふかを、知つていただくために書いたものです。日本の戦車については、防諜上あまり書けませんでした。外国以上のものがぞくぞく生まれつつあることは、ほんとに心強いことです。(はしがきより)

216 僕らの航空読本

古川真治 / 玉川学園出版部

装幀・解説図 落合登

- 一、大空の散歩 その勉強室 操縦術入門
- 二、少年飛行兵志願 その勉強室 少年飛行兵とくらしの二十四時間
- 三、二人の手紙 その勉強室 軍用機の種類 民族精神と航空機
- 四、陸軍落下傘部隊 その勉強室 空飛ぶ歴史
- 五、航空科一年生 その勉強室 発動機について(目次より)



220 殊勲の荒鷲

毎日新聞社 / 毎日新聞社

表紙・挿画 高島達四郎

少年飛行兵の鍛錬と実戦の物語を、この本の中で読んで下さい。そして皆さんのお手本にして下さい。(はしがきより)



225 僕らの戦場

松永健哉 / 第一出版協会

装幀・挿絵 西正世志

この本は、諸君の友人である、忠義な少年たちの実話を書いた小説です。少年の戦場小説です。きつと、諸君に、清い涙とともに、愛国の真心と、固い実行の決心とを、ふるひ起させるものと信じてゐます。(はしがきより)



227 間宮林蔵

和田政雄 / 鶴書房

装幀・挿画 新井五郎

世界地図をひろげて見ると、海峡でも島でも山でも、外国人の名前をとつて名づけたものがおほいのに、そのなかにたゞ一つ日本人の名前のものがある。それはシベリヤと樺太のあひだの間宮海峡だ。

間宮海峡は間宮林蔵が命がけの探検をして発見したのである。(少年少女の皆さんへより)





235 フィリピン物語

宮下正美 / 富山房

装幀・挿絵 黒崎義介

友達と仲よくするためには、友達のことやその国のことをよく識らなければなりません。これからの日本にとって、フィリピンは非常に大切な所となります。大東亜共栄圏の一員として、手をとって励まして上げ、立派に育てて行つて上げるためには、是非とも、その土地について、よく知つてゐる必要があります。(はしがきより)



246 興亜少年

矢沢邦彦 / 三省堂

画 森口静枝

これは、満洲建国前夜の物語である。

また、大東亜共栄圏建設の前夜物語として、是非とも読んでもらひたい。

今や、勝ちぬくための日本にとっては、鍛錬された身体を持ち不屈不撓の闘魂に満ちた日本人を必要とする。聡明、慧敏、工夫と創意に富む日本人を必要とする。(序に代へてより)



248 空の艦長

山岡荘八 / 偕成社

装幀・挿絵 村上松次郎

海軍少年飛行偵察科練習生の生活と猛訓練の実相を語り、更に雷撃爆撃偵察等、空戦の苦心と不屈の闘魂を描く。(本書巻末広告より)



249 たましひをきたへる少国民の戦陣訓

山田真雄 / 受験研究社増進堂

戦陣訓は昭和の論語、或は論語以上の宝典であります。

その文章と云ひ、その内容と云ひ、味へば味ふほど、旭に匂ふ山桜と称えられた日本精神の真髓を体得することが出来ます。

戦陣訓は、独り戦陣にある軍人のみの教訓では無い。

国民全部に対する必須の大教訓であります。(竹内浦次氏序より)

255 パンボン高地

山本和夫 / 学芸社

画 笹岡了一

此の「国民学校聖戦読本」は、次の時代の日本を背負って立つべき小国民をして、健全な生活意識を有たしめ、逞しい意欲を錬成せしめることを意図して企画されたものであります。(父兄の方へより)



256 山田長政

池田宣政 / 三省堂

画 梁川剛一

日本人は、南の海と空にあこがれてゐる。それは、三百年前の長政はじめ日本人町の人々の魂の呼声に答へる、あこがれではあるまいか。

若い諸君よ。

南の地図をひらきたまへ。その各所に、日本人町はあつたのだ。長政の領地もあつたのだ。(この本を読まれる方々へより)



265 科学漫画ボンちゃんの悪戯日記

横山隆一 / 中央公論社

画 横山隆一

此度の私共の企画は、科学的な物の考へ方と科学上の学説とに取材し、荒唐無稽を廃し、具体的、且つ正確に、科学者としての良心に恥ぢない正しいものを提供し、これを漫画界の第一人者横山隆一氏が面白く、楽しく、漫画化したものであります。(今井喜孝氏ほか科学漫画について父兄の方へより)



266 小さな船長さん

横山隆一 / 朝日新聞社

カンタラウのおうちは、かはのうへにうかんだ、おふねです。

カンタラウは、アカンボウのときから、おふねのなかでそだちました。かはのうへにすんでるひとたちは、小さなふねのなかへ、ヒトツボくらひのおへやをもつてゐます。(本文より)





267 蒙疆の子供

吉田一次 / 甲鳥書林
装幀及挿画 山根武士

戦地にあつても、連日連夜戦争ばかりしてゐるわけではありません。それですから、本書にかいたやうなのんきな話もあります。(はしがきより)



268 戦国の名将

吉田正子 / 北光書房
表紙 石井滴水 挿絵 須藤宗方

ここに二十人あまりの逸話を集めてみました。
だいたい、戦国時代の始めから、徳川氏勃興までの年代に及んでゐますが、正確な歴史として取あつかふよりは、むしろ、やさしい読物に、と心掛けました。(まへがきより)



269 僕の木造船日記

芳谷勝 / 学芸社

僕たちの町は、入江にかこまれた小さな港町です。
僕のおうちは、昔から船をつくる造船所です。去年なくなつたお祖父さんも、そのまたお祖父さんも、船大工だつたさうです。(本文『岬の造船所』より)



271 かひこの村

与田準一 / 二葉書房
画 熊谷元一

この絵本では終りの方だけ、養蚕業がもたらす「戦ふ製産品」をならべて直接知識にうつたへるやうな構図にしてありますが、他の大部分は養蚕の知識を、間接的に「生活のよろこび」とほして扱はれてあることに御留意下さい。したがつて子供たちには、知らしめるよりも、その日本特有の生活をたのしませることを主眼にあつかつて頂きたいと思ひます。したがつて、各頁の文章もなるべく、生活の情意を本位にと心がけました。(编者お母さま方へより)

273 ロシヤ物語

鷲尾知治 / 三友社

世界の情勢 特に日本と関係深い世界の国々を知る事が大切です。
この小さい書物は、皆さんに先づロシヤを知つて頂きたいと思ふ私の切なる
念願から書きました。ロシヤの地理・風俗・人情・軍事・政治等を知つておく
事は今後の日本にとって、どの国よりも大切です。(日本の少年少女諸君に！
より)



276 若林東一中隊長

毎日新聞社 / 毎日新聞社

表紙・挿絵 高井貞二

神国日本の天壤無窮を信ず。大東亜戦争の必勝を信ず。
後に続くものを信ず。

かう言ひ残して若林東一中隊長は、ガダルカナル島の花と散りました。皆さんはこの書物の中で、若林中隊長や、その他の皇軍勇士が、どれほど困苦欠乏を耐へ忍び、どれほど雄雄しく戦つて来たかを、くはしく読むことが出来るでせう。(はしがきより)

